

# 水稻生産情報



JA つがる弘前  
中央地区営農係

天候に応じた水管理で、活着促進・早期茎数確保！

## 1. 水稻生育状況

- 田植え後（5月下旬～6月上旬）の気象は平均気温は低く、日照時間も少なく推移したため、生育の進みはやや遅い状況です。
- 今後ともこまめな水管理を行い、分けつを促し、早期に茎数を確保しましょう。

管内生育観測圃 生育調査結果（6月10日調査）

品種	草丈（cm）			茎数（本/株）			葉齢（葉）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
はれわたり	26.1	28.9	27.3	4.3	4.8	5.3	4.8	4.9	4.8
まっしぐら	30.5	30.2	27.4	4.5	5.0	5.0	4.9	5.1	5.2
青天の霹靂	29.3	31.9	28.4	4.5	5.4	4.8	4.8	5.2	5.0

## 2. 中干しまでの水管理

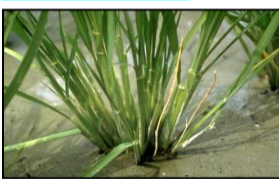
- 暖かい日：2～3cmの浅水管理
- 寒い日：5～6cmの深水管理

## 3. 中干し（6月下旬頃～）

- 茎数20本/株を確保したら開始。
- 田面に軽く亀裂が入る程度。
- 生育が遅れている場合や低温時は中止。

## 4. 幼穂形成期の水管理

- 幼穂形成期（平年7月13日頃）以降は気温や天候に関係なく、10日間は水深10cm程度の深水管理。



活着・分けつ促進のため、水温・地温を上昇させよう。



中干しの目安

## 5. 除草剤

塊茎（イモ）から発生する雑草は、長期間にわたって発生し、一発剤だけでは防除しきれない場合があります。雑草の種子や塊茎が残ると、来年の発生も多くなるため、除草剤を早めに散布しましょう。

残った雑草	薬剤名	使用時期	散布方法
広葉雑草	バサグラン粒剤	田植え後15日～55日	落水状態（足跡に水がたまる程度）で散布。10a当り3～4kg散布。
	バサグラン液剤	田植え後15日～55日	落水状態（足跡に水がたまる程度）で散布。10a当り水100に500ccを希釈。
イネ科雑草	トドメ MF1 kg粒剤	田植え後14日～（ノビエ5葉期まで）	湛水状態で散布。10a当り1kg散布
	トドメ MF 乳剤	田植え後14日～（ノビエ7葉期まで）	湛水又は落水で散布。展着剤不要。10a当り水25～100に200ccを希釈。
両方残った場合	トドメバス MF 液剤	田植え後15日～（ノビエ6葉期まで）	落水状態（足跡に水がたまる程度）で散布。展着剤不要。10a当り水70～100に1000ccを希釈。

青天の霹靂は、バサグラン、トドメ、トドメバスは使用できます。

## 6. 病虫害防除

### イネドロオイムシ

近年、多発する水田が見られます。葉の食害が多くみられると、稲の生育が遅れるため、発生が多い場合は防除しましょう。



イネドロオイムシの幼虫と被害

薬剤名	使用時期	使用量/10a	使用方法
なげこみトレボン	5葉期以降	容器4～6個	水田に容器のまま投げ込む。（容器が溶けて、中身の薬液が水田全体に広がります）処理後3～4日間は湛水状態を保ちましょう。

### 葉いもち病対策

曇雨天（低温、日照不足、高湿度）が続くと発生しやすくなります。昨年多発した水田や毎年発生する水田では防除剤を6月下旬頃に散布し、予防に努めましょう。

薬剤名	使用量/10a	使用方法
オリブライト250（豆つぶ）	250g	中干し前に水が入った状態で散布し、散布後4～5日間は湛水状態を保ちましょう。



青天の霹靂は、なげこみトレボン、オリブライトは使用できませんので、ご注意ください。

**【いもち病対策は万全に！】**  
中央地区管内は、例年いもち病の発生が少ない傾向があります。その為、藤崎地区・中央地区航空防除では、いもち病防除は省略し、カメムシ防除を2回実施しております。  
しかし、天候等によってはいもち病が発生する場合も考えられますので、こまめに圃場を見回り、発生が見られたら直ちに薬剤を散布しましょう。